

大腸癌肝転移の研究プロジェクト No2

2010.07.15

<活動報告>

1. 肝転移データベースのプロトタイプを小委員会の委員で再度検討し、ver5.2を作成した。
2. 2008年1年間に肝転移治療を開始した症例を対象に、このデータベースを用いて、入力を行い、症例を集積した。
3. 同時に、このデータベースの入力についてのアンケート調査を実施した。(詳細は別紙参照)

<データベース集積状況>

CD 送付：357 施設、回収：100 施設

アンケート送付：357 施設、回収：96 施設

<アンケート集計結果：101 施設>

- (1) ファイルメーカープロによるデータベース化について
a.賛成：70 b.反対：3 c.どちらともいえない：28
- (2) 肝転移の項目数
a.多い：36 b.ちょうどよい：55 c.:少ない：2 記入なし：8
- (3) 入力について
a.苦勞した：77 b.樂であった：19 記入なし：5
- (4) データベースを prospective に行うことについて
a.賛成：72 b.反対：1 c.どちらともいえない：26 未記入：2

<今後の予定>

1. 2008年の1年間における肝転移の臨床データを集積、解析する。
2. 今回行ったデータベースの問題点を洗い出し、修正を行う。
3. 2010年7月15日日本消化器外科学会開催時に日本肝胆膵外科学会と第2回合同委員会を開催し、入力項目およびデータベースの体裁等を話し合い、早急に共通のデータベースの完成を目指す。(年内に)
4. 2010年11月日本大腸肛門病学会総会で報告する。
5. 集積データを解析し、まず現時点での日本における大腸癌肝転移の治療成績を把握する。
6. 全国登録とのリンクを検討する。
7. 患者名の匿名化コードについて検討する。

(文責：高橋慶一)